

産科主治医の先生へお願い

東京女子医科大学では、日本医学会、日本産科婦人科学会の認定を受けた施設として無侵襲的出生前遺伝学的検査（母体血を用いた出生前遺伝学的検査）NIPT を行っています。本検査は、遺伝カウンセリングに関する研究の一環として、日本産科婦人科学会の指針や関係 5 団体の共同声明に沿って実施されます。

この検査を希望される妊婦さんには、当院遺伝子ゲノム診療科での専門外来でパートナーの方とともに遺伝カウンセリングを受けて頂く必要があります。つきましては、下記「検査を受けるための 11 項目」の全てを満たすかどうかをご確認いただき、全てを満たす場合には専用の診療情報提供書（2 枚目）に必要事項をご記載頂き、妊婦さんにお渡し下さい。検査を受けた妊婦さんのカウンセリング後の妊娠経過および分娩経過の情報についても追行いたします。したがって、この情報を確実に当方までご連絡頂き、かつ分娩できる施設に通院している妊婦さんが検査の対象となります。

大変にお手数をお掛け致しますが、よろしくご配慮下さいます様お願い申し上げます。

東京女子医科大学 遺伝子ゲノム診療科

斎藤加代子

東京女子医科大学 母子総合医療センター

小川 正樹

検査を受けるための 11 項目

- ①超音波検査により分娩予定日が決まっている
- ②初診日に紹介元の産婦人科からの診療情報提供書を持参できる
- ③出産後に分娩担当医からの診療情報提供書が可能と確認してある
- ④遺伝子ゲノム診療科初診日と検査実施日に妊娠週数が原則として 10 週 0 日から 14 週 6 日の間である
- ⑤多胎（双子や三つ子などの）妊娠ではない
- ⑥検査前に最低 2 回遺伝カウンセリングをパートナーとともに一緒に受けることができる
- ⑦検査を受けた場合、結果の説明時の遺伝カウンセリングもパートナーと一緒に受けることができる
- ⑧検査を受けていずれかの症候群の陽性が出た場合に、東京女子医科大学病院産婦人科で羊水検査を受けることができる
- ⑨羊水検査で染色体の変化が確定した場合、当院に転院できる
- ⑩説明書（遺伝子ゲノム診療科 ホームページリンク）を事前に読んでいる
- ⑪検査前後のアンケート（全 2 回）に回答できる

診療情報提供書

東京女子医科大学遺伝子ゲノム診療科

担当医 殿

認定遺伝カウンセラー 殿

紹介元医療機関

住所：〒 _____

医療機関名： _____

診療科名： _____

紹介医氏名： _____

電話番号： _____ (_____) _____

下記妊婦さんが、無侵襲的出生前遺伝学的検査を希望しておりますので紹介致します。

患者氏名： _____

生年月日： _____年 _____月 _____日 (_____) 歳

診療情報

分娩予定日： _____年 _____月 _____日

凍結胚移植の場合の採卵時点の期日および年齢： _____年 _____月 _____日 (_____) 歳

妊娠週数：妊娠 _____ 週 _____ 日 (_____ 月 _____ 日現在)

超音波検査： _____ 月 _____ 日時点でのCRL = _____ mm、胎児心拍 (+)・(-)

家族歴・既往歴：なし・あり (詳細： _____)

妊娠歴：なし・あり _____ 回 (詳細： _____)

分娩歴：なし・あり _____ 回 (詳細： _____)

検査適応

(該当する部分の口に✓でチェックして下さい)

胎児が染色体異常 (13トリソミー、18トリソミー、21トリソミー) のいずれかに罹患している可能性が高いと推測される

その根拠： _____

染色体異常児の出産既往 (13トリソミー、18トリソミー、21トリソミー)

高齢妊娠 (出産予定日時点で35歳以上)

凍結胚移植の場合、採卵時年齢が34歳2か月以上